

子どもの多様な川遊びの安全性を支える地域の社会構造に関する考察 Consideration about the Social Structure that Supports the Local Children to Play Safely around Rivers

○新田将之* 中島正裕**

○Masayuki NITTA* Masahiro NAKAJIMA**

1. はじめに

子ども（小学生）の川遊び^{註1)}には、社会性の向上¹⁾や自然への認識の深化²⁾等、多様な効果が指摘されている。こうした効果の獲得には、河川における子どもの安全性を担保することが重要である。先行研究では、河川の管理者・救助機関間の連携の重要性が指摘されている³⁾。しかし、子どもの多様な川遊びの安全性を担保するには、河川に関する知識の提供等、子どもに日頃から関わる地域の多様な主体の働きかけも必要だと考えられる。

そこで本研究では、多世代による多様な川遊びが行われている地域を対象として、子どもの川遊びの実態と安全性を把握し(目的1)、安全な川遊びへの多様な主体の働きかけを解明したうえで(目的2)、川遊びの安全性を支える地域の社会構造を考察する(目的3)。

2. 研究方法

2.1 調査対象地の概要

岐阜県郡上市旧八幡町（以下、郡上八幡）を調査対象地とした。郡上八幡では、「地域の川遊び場」として3つの河川区域が認識されており、多世代による多様な川遊びが行われている。

2.2 調査・分析手順

目的1では、八幡小学校の4～6年生127名を対象に、アンケート調査を行った(2010年)。質問内容は川遊びの頻度等を含む18項目から構成した。また補足的に聞き取り調査を行った。さらに郡上消防署（以下、消防）より得た資料から水難事故の実態を把握した。目的2では、川遊びに関与すると想定した主体（小学校、市、漁業協同組合（以下、漁協））と地域住民8名を対象に、川遊びの安全性に関する聞き取り・資料調査を行っ

た(2010年)。目的3では、既出の8名を含む地域住民16名に聞き取り調査を行い(2016年)、地域の社会構造の経年的検証を行った。

3. 子どもの川遊びの実態と安全性

3.1 子どもの川遊びの基本的傾向

アンケート調査の結果、91.3%の子どもが川遊びを「好き」と回答し、また77.2%の子どもが川遊びを「週一回以上」行っていた。子どもの初川遊びの年齢と相手を表1に示す。子どもの初川遊びの相手は親(67.5%)が最も多かった。また、小学校入学前(5歳まで)に初川遊びを経験した子どもは、入学後に経験した子どもよりも川遊びを頻繁に行う傾向があった。

3.2 川遊びにおける他者交流

普段の川遊び人数と、川遊びを通して他者と知り合った経験の関係性を図1に示す。川遊び人数が多いほど、他者と知り合った経験がある割合が多かった。この結果を口述データから実証的にみると、「川遊び場が(3つ)決まるとるもので、みんなそこで遊ぶ。だからみんな知り合い」、「(川遊び場に来た遊び集団に共通の)友達がいたら、一緒に遊んだりする」とあった。

よって、川遊び場が3つに特定されることで、多くの子どもがそこで遊ぶよう促され、子どもの集合性が高まっていたと考えられる。また、より多くの人数と川遊びを行うことは、他の子ども集団との間に共通の友達を有する確率を高め、他者交流を促していたと考えられる。

表1 子どもの初川遊びの年齢と相手

Table 1 The age when children play around rivers for the first time and the companions at that time

初川遊びの年齢	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	合計
子どもの人数	2名	6名	9名	18名	18名	19名	15名	15名	11名	7名	120名
一初親	100.0%	100.0%	88.9%	61.1%	88.9%	73.7%	53.3%	40.0%	45.5%	28.6%	67.5%
緒川祖父母	0.0%	16.7%	22.2%	16.7%	5.6%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%
に遊友達の親	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	9.1%	0.0%	3.3%
いび友達	0.0%	33.3%	33.3%	27.8%	16.7%	36.8%	46.7%	73.3%	81.8%	71.4%	43.3%
た時兄弟	50.0%	0.0%	33.3%	44.4%	0.0%	26.3%	13.3%	20.0%	36.4%	57.1%	25.0%
にその他	50.0%	0.0%	11.1%	11.1%	27.8%	10.5%	6.7%	6.7%	0.0%	0.0%	10.8%

*東京農工大学大学院連合農学研究科 United Graduate School of Agricultural Science, Tokyo University of Agriculture and Technology. **東京農工大学大学院農学研究院 **Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology. キーワード：子ども，川遊び，安全性，親水，社会構造

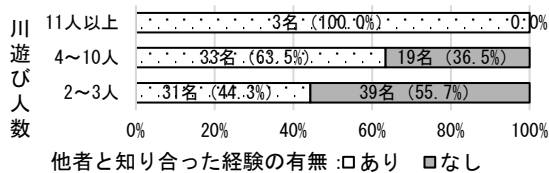


図1 川遊び人数と他者交流の関係性(p=0.003<1%)
 Fig. 1 The relationship between the number of players and the experiences to know strangers (p=0.003<1%)
 注) 「1人」で川遊びを行う子どもはいなかった。

3.3 川遊びの安全性

消防の水難救助記録によると、過去35年にわたって、夏期(7~9月)における地元(郡上八幡居住)の子ども(小学生)の水難事故による死亡事例はなかった。しかしアンケート調査の結果、37.9%の子どもは溺れそうになった経験を有していた。溺れ時の救助者は「一緒にいた人」(51.1%)、「自分」(42.6%)、「近くにいた人」(6.4%)であった。それぞれの具体的経験内容は、「友達/親が引っ張ってくれた」、「流されてれば足がつく」、「釣り人に竿を使って拾い上げられた」であった。

以上から、溺れ時の救助には、《仲間間の互助》、子どもの《高い自助能力》、及び《大人の見守り》が影響を与えていたと考えられる。

4. 安全な川遊びへの多様な主体の働きかけ

4.1 家庭での働きかけ

表1の結果から、子どもの《高い自助能力》に関しては、親が幼少期より川遊び機会を提供することで経験が蓄積し、溺れ時の自助に必要な能力が向上したと考えられる。これは、親も幼少期から河川で遊んでいたことが影響していたと考えられる。さらに、祖父母からは飛び込み方の助言等があった。

4.2 その他の主体の働きかけ

聞き取り調査の結果、市は全河川利用者を対象に【河川利用の規制(立て看板や身体検査等)】を設けていた。小学校は子どもと保護者を対象にプリント配布による川遊びの注意喚起と指導を行っていた。その内容は【遊び時間の指定】【遊び人数の指定】【危険箇所の通知】【川遊び場の誘導】の4つに分類できた。漁協は釣り人を対象に【緊急時の救助】に関する注意喚起を行っていた。

5. 総合考察

本研究の知見に基づき、子どもの多様な川遊びの安全性を支える社会構造を、「主体の働きかけ」、「働きかけの効果」、「溺れ時の救助機能」の3つの観点から整理した(図2)。小学校の働きかけ(a, b, c)は、[川遊び場の特定]と[複数名での川遊び]に影響を与え、《仲間間の互助》機能を向上させていた。家庭の働きかけ(d)は、子どもの《頻繁な川遊び》を促し、《高い自助能力》の獲得に影響を与えていた。小学校と漁協の働きかけ(e, f)は[保護者の同伴]と[釣り人の見守り]を促し、《大人の見守り》機能を高めていた。

このような社会構造によって、本地域では子どもの川遊びの安全性が担保されていた。さらに、こうした社会構造が形成された根底には、「川遊びはどえらい楽しい」、「子どもは川で遊ぶのが大事」とあるように、地域の大人たちの「実体験を通じた川遊びに対する理解」が存在していたと考えられる。

一方で、2016年の調査では、「ウチの嫁は外から来たから息子に川で遊ばせない」といった、川遊びに対する否定的な意見もみられた。継続的な子どもの川遊びに向けては、地域外からの移住者がどのように川遊びの安全性に対する理解を深めていくかが課題である。

注釈 1)川遊びにおける「川」には用水路及び河川が想定される。本研究では、危険性が高いと想定された河川での遊びに着目した。
 参考文献 1)近江屋一郎・斎藤雪彦・田中史郎(2011):放課後の生活時間から見た都市近郊農村地域における子どもの交流活動の現状。ランドスケープ研究, 4, 40-47. 2)大越美香・熊谷洋一・香川隆英・飯島博(2003):水辺における子どもの遊びの変遷と動植物に対する認識。ランドスケープ研究, 66, 733-738. 3)田和良太・佐久間康富(2010):河川での水難事故から見た子どもの親水空間の行為と安全管理。都市計画論文集 45, 811-816

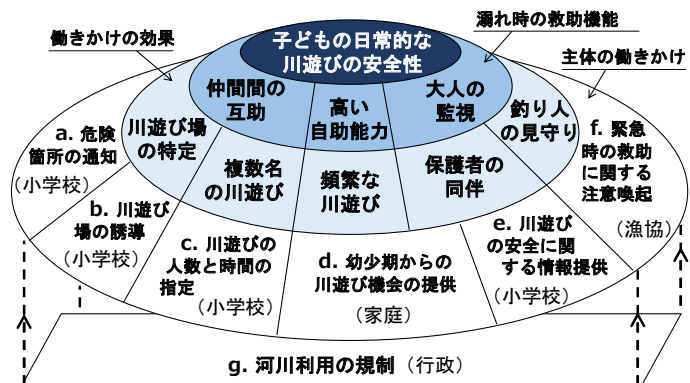


図2 子どもの多様な川遊びの安全性を支える社会構造
 Fig. 2 The social structure that supports children to play safely around rivers in Gujohachiman